



図書館劇場 XX 第 3 幕関連資料展示



ヒトマロをさがせ！

— 柿本人麻呂の実像を求めて —

2025

8.30 Sat. — 10.30 Thu.

9:00-20:00 月曜休館（但し 9.15, 10.13 は開館、9.16, 9.30, 10.14 は休館）

奈良県立図書情報館 3F ブリッジ





『百人一首かるた』第三番柿本人麻呂 江戸期

ごあいさつ

柿本人麻呂は、主に持統天皇の時代に天皇や皇子たちに捧げる歌を多く詠んだ歌人です。しかしながら『日本書紀』や『続日本紀』などの正史にはその名の記載がありません。

天皇に近い位置にしながら、その官位も生没年も明らかではなく『万葉集』の中にしかあらわれない人麻呂、その謎多き人物を後世の人々はどのようにとらえていったのでしょうか。文献に描かれた姿を通して先人たちが求めた人麻呂像に近づくことができればと思います。



マークがついている資料は、当館 HP の [まほろばデジタルライブラリー](#) で画像を公開しています





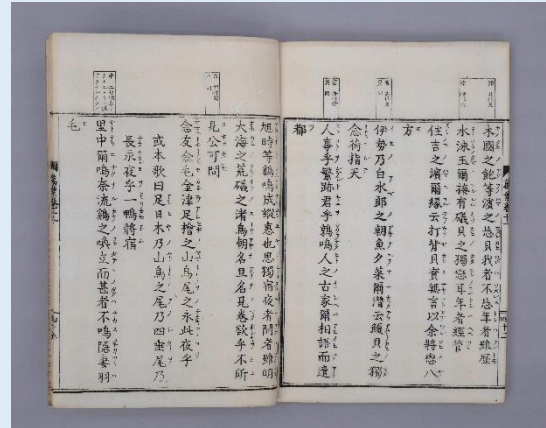
万葉集と人麻呂

ヒトマロ

柿本人麻呂は主に持統天皇の時代に歌人として活躍していました。しかし正史である『日本書紀』や『続日本紀』にその名は記載されていません。『万葉集』の中にだけ人麻呂という名の記述があり、生没年や身分にいたるまで謎に包まれているのです。

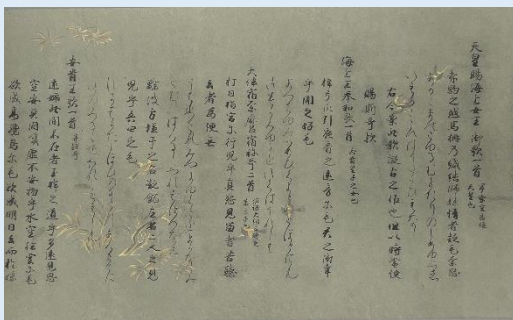
百人一首第3番「あしびきの山鳥の尾のしだり尾のながながし夜をひとりかも寝む」という歌は柿本人麻呂作として誰もが知るものでしょう。しかしながらこ

れまでの研究によりこの歌は人麻呂が詠んだものではないという説が有力です。この原歌は『万葉集』11巻の詠み人知らずの歌「^{おも}念へども^{おも}念ひもかねつ足ひきの山鳥の尾の^{なが}永きこの夜を」とされており、しかも「或本歌曰（ある本の歌に曰く）」と書かれた注釈の歌が柿本人麻呂の歌として採用されています。



「あしびきの…」の原歌

『万葉和歌集校異』 文化2[1805]年刊
(請求記号:911.12-マンヨ-11 ID:151267528)



『万葉集』（「桂本」複製）

昭和3[1928]年刊
(請求記号:911.12-75 ID:151190172)

万葉集

日本最古の歌集といわれる『万葉集』ですが、現在のところ、その原本は発見されていません。現存している『万葉集』はすべて写本であり、刊本はその写本を元に印刷したものです。最古の写本とされる「桂本」は平安時代中期の書写で、第4巻の3分の1と断簡のみ残存しています。古い時代の写本は観賞に用いられたために多くが断簡となっているのです。

『万葉集』20巻完本が一番古い写本は鎌倉時代後期のもので、鎌倉時代の僧仙覚の校訂本を基礎としています。

『万葉集』は全体像がつかみにくく謎が多い資料ですが、平成5(1993)年には20巻完本である「広瀬本」が新たに「発見」され、今後のさらなる研究の発展も期待されます。



うた ひじり

歌の聖

歌の聖

最初の勅撰和歌集である『古今和歌集』（905年編纂開始）には人麻呂の歌は載せられていませんが、その仮名序で紀貫之は「正三位の柿本人麻呂は歌の聖である」と称賛しています。

「正三位」というのは上級貴族に相当するので人麻呂の出自を考えると疑わしいのですが、人麻呂の大胆な歌いぶりは、歌の技巧に固執した平安時代の歌人たちを引きつけ、新鮮な思いをいだかせた様子がみてとれます。この貫之が記した「歌の聖」という称号は後々も人麻呂をたたえる表現として定着し、「歌の聖」＝人麻呂と理解されるようになります。

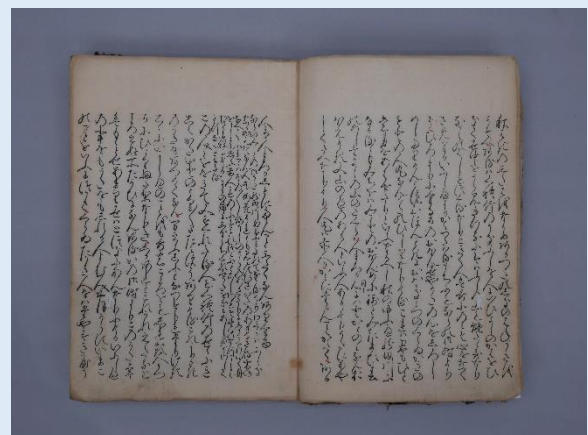
拾遺和歌集

続いて三番目の勅撰和歌集である『拾遺和歌集』（1005～7年頃成立）をみると、人麻呂の歌が103首入集しています。『古今和歌集』から『拾遺和歌集』の編纂にいたるまでの100年の間に人麻呂の歌への思慕は浸透し、優れた歌人として強く認識されたことのあらわれだといえるでしょう。同時に『万葉集』では詠み人知らずとされた歌が人麻呂の歌として多くおさめられています。この理由は、『拾遺和歌集』の編者が、先に編集された『柿本朝臣人麻呂歌集』（編者不詳）におさめられた歌を疑うことなく人麻呂の歌と考えたからではないかといわれています。

いずれにしても11世紀において人麻呂はすでに伝説の人となり、遣唐使となって唐に行き詠んだ歌として「天飛ぶや 雁の使ひにいつしかも 奈良の都に言伝やらん」（『拾遺和歌集』巻6）という一首がおさめられるなど、人麻呂の偶像はふくらみ史実とは異なる伝承もつくられていきました。

（現代語訳）…古くから、このように伝えられ、奈良の天皇（文武天皇カ）の時にひろまりました。天皇は歌の心をご存じでした。この時正三位の柿本人麻呂は歌の聖でした…

いにしへより、かくつたはるうちにも、
ならの御時よりぞひろまりにける、かのおほむ世や、哥のころをしろししたりけむ。かのおほん時に、おほきみつのくらみ、かきのもとの人まろなむ、哥のひじりなりける…



『古今和歌集』仮名序

『古今和歌集』天和3[1683]年刊

（請求記号:911.135-コキン ID:151267599）



ひと ま ろ み え い ぐ

人麻呂御影供

人麻呂御影供

人麻呂の歌が勅撰和歌集などで高く評価されるにしたがって、多くの人が人麻呂を崇拝するようになりました。とくに歌人たちは自らの歌の技術を高めたいと願い、人麻呂の姿を描いた「御影」を崇めて供養を行うようになりました。これを「人麻呂御影供」とよびます。

橘成季が編纂した説話集『古今著聞集』(1254年成立)の178話には、日本で最初に行った「人麻呂御影供」とされる話があります。

元永元年(1118)年6月16日、藤原顕季が六条東洞院亭にて柿下大夫人丸供(人麻呂御影供)を行いました。人麻呂の絵像は藤原兼房の夢に出てきた姿をあらわしたもので、左の手に紙を持ち右手に筆を握った60歳くらいの年齢の人であり、その上には讃が書かれています。

この話にある人麻呂像の構図は、その後定型化され、人麻呂といえば左手に紙、右手に筆をもつ表現が典型になりました。明治33(1900)年に出版された『好古類纂』(歴史研究書)には下鴨神社伝来の『三十六歌仙絵巻』(『佐竹本三十六歌仙絵巻』)を模写した人麻呂像が載せられており、同様の構図で描かれています。

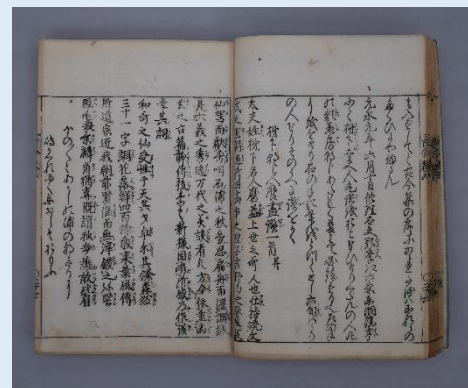
続けて『古今著聞集』を読み進めると、人麻呂の御影の前につくり物の飯一杯・菓子・魚鳥などを供え、酒を献上した後、人麻呂をたたえる讃を講じ和歌を詠むとあり、「御影供」は人麻呂を供養すると同時に歌会でもあったことがわかります。



柿本人麿之像

『好古類纂』明治33[1900]年刊
(請求記:051.3-コウコ-1 ID:151260406)

：元永元年六月十日、修理大夫顕季卿、六条東洞院亭にて柿下大夫人丸供をおこなひけり、くだんの人丸の影兼房朝臣あたらしく夢にて図絵する也、左の手に紙をとり、右の手に筆をとつて、とし六句ばかりの人なりそのうへに讃をかく(略)：此讃兼日に敦光朝臣つくりて、前ノ兵衛佐顕仲朝臣清書しけり、当日影の前に机をたて、飯一杯・菓子・やうくの魚鳥等をすへたり、但物にてつくりて実物にはあらず(略)：顕輔盃をとりて人丸の前に置、道經小調子をとりにて盃に入て机のうへにおく(略)：讃をひらきて文台に置て是を講せらる、次に和歌を講ず：



修理大夫顕季人丸影供を行ふ事

『古今著聞集』元禄3[1690]年刊
(請求記号:913.47-ココン-2 ID:151261283)



うた づか

歌塚と名所

歌塚

歌聖として尊敬された人麻呂は「人麻呂御影供」が浸透するにしたがって、徐々に神格化し、和歌を守護する神として住吉明神・玉津島明神とともに三神に数えられるようになります。また同時に人麻呂の墓が歌塚（歌墓・人丸塚・人丸墳など異称あり）とよばれ名所となっていました。

延宝3（1675）年序の『南都名所集』には人丸塚の様子が大きく描かれています。祠の奥には人麻呂らしき絵像がかかげられ、その前でひざまずき手を合わせる人物の姿がみえます。祠は「はるみちみや」とあり、詞書きには「柿本人丸の塚ハ、櫟本といふ里に治道宮といふ神社あり、此宮の西の辺にあり、此辺に柿本寺といふ寺もあり」と述べられ、続けて鴨長明の『無名抄』の記述を引用しています。

この歌塚に関しては『^{やまと}中漫録』の「^{やまと}馬土名勝志」にも詳しく記述され、『無名抄』・『文明八年勸進帳』・『藤原清輔家集』を引用したあと、以下のように考証されています。

（現代語訳）人丸の墓は葛下郡の柿本寺という草庵にも、また吉野の山中にもある。人麻呂は生まれや終わりもわからない上代の歌人であり、これまで様々な文献に記載されているが明らかではない。また三つのくらゐ（正三位）の大夫が『日本書紀』や『三代実録』に名前がなく文献によって記述が異なるのは和歌の最も難解なところである。

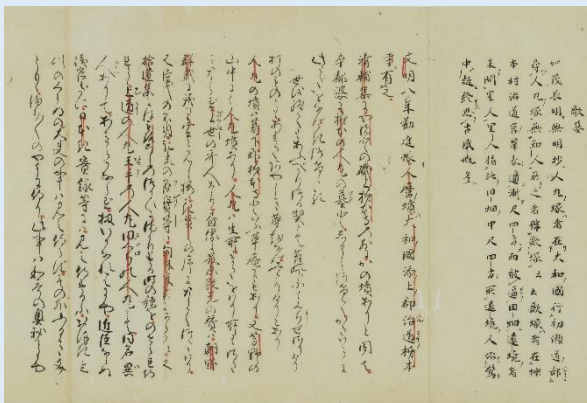


まほ
デジ

人丸つか

『南都名所集』延宝3〔1675〕年序

（請求記号:291.65-ナント-7 ID:151260890）



歌墓

（『中漫録』^{やまと}馬土名勝志 江戸中期
請求記号:22-1-8 ID:557045647）

まほ
デジ

歌墓

：人丸の墳ハ葛下郡、柿本寺といふ草庵にもあり、又芳野の山中にも人丸墳あり、人丸ハ生所、またをハリ所もさたかならず、上世の哥人なり、画像に藤原敦光の賛ハ、朝野群載に残り、雲と見し桜ハ、紀貫之の序になかくつたハリ、又時代の不明、配流の否実等ハ、詞林採葉にあらハれ、又拾遺集には、もろこしのつかひに、まかりける時の歌を、のせられ侍れとも、上道の人丸、玉手の人丸、田ぐちの人丸とて、同名異人ありて、あきらかならず、扱いかねはにや、近臣ならぬ浅官だに、日本紀・実録等には、見え侍けるに、おほき三つのくらゐの、大夫の事ハ見え侍らず、その外ふるき文とも、まち／＼のやうに侍り、此事ハ和哥の奥秘とかや

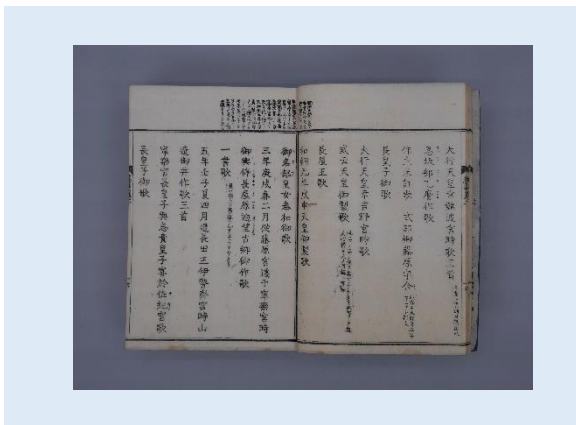


江戸時代の万葉集

江戸時代の万葉集

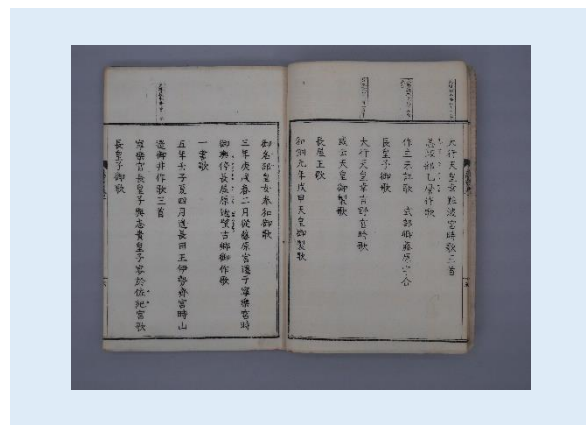
写本のみで伝えられてきた『万葉集』は、慶長・元和頃（1596～1624）に木製活字によってはじめて印刷出版されました。寛永20（1643）年には京都の書肆安田十兵衛が活字版を元に版木を彫り『万葉和歌集』として刊行します。この寛永の刊本『万葉和歌集』がひろく流布し、これまで一部の人しか目にすることのなかった『万葉集』が多くの人の手に届くようになりました。

寛永版の版木は後に京都の書肆出雲寺文治郎の手に移り、宝永6（1709）年には再版されましたが、天明8（1788）年の大火により版木が焼失します。そこで出雲寺は寛政元（1789）年に寛永版を模刻した本文に僧惠岳の注釈を入れた『万葉集旁註』を出版します。しかしこの本はあまり流布しなかったため、文化2（1805）年には元の版木から惠岳の注釈のみを削り取り、新たに諸本との校異の注記を上欄に加えた『万葉和歌集校異』を刊行しました。この文化版の刊本が寛永版の系譜を引く『万葉集』として一般に認識されることになります。実際に三冊をみくらべると非常によく似ていることがわかるでしょう。



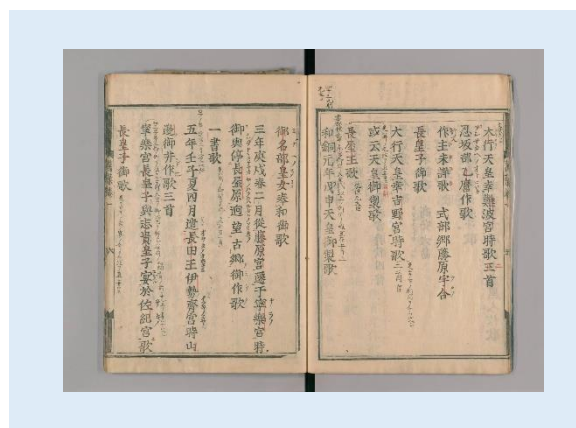
『万葉集旁註』

寛政 1[1789]年刊
(請求記号:911.12-マンヨ-1
ID:151267538)



『万葉和歌集校異』

文化 2[1805]年刊
(請求記号: 911.12-マンヨ-1
ID:151267518)



『万葉和歌集』

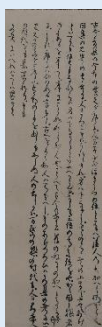
安田十兵衛刊, 寛永 20[1643]年刊
(国立国会図書館デジタルコレクション
<https://dl.ndl.go.jp/pid/2579469>)



描かれた人麻呂

万葉集研究と人麻呂

出版により『万葉集』が身近なものになると、多くの学者が『万葉集』をテキストとして歌や言葉の成り立ちを考えるようになりました。その代表的な学者が契沖と賀茂真淵でしょう。契沖が元禄3（1690）年に出版した『万葉集代匠記』は古書を手がかりとして文献を読解する手法を重んじており、実証的な研究は今も高く評価されています。真淵は歌人としての感性にもとづいた鋭い研究を残しました。明和5（1768）年刊行の『万葉集考』（『万葉考』ともいう）では『古今和歌集』の序に対して「偽ごと」と疑問を唱え、人麻呂の正三位という身分を否定する考察を行っています。



柿本朝臣人麻呂の考証
『万葉集考』 明治期刊
(請求記号:911.12-マンヨ-7
ID: 151267569)

（現代語訳）：古今和歌集の紀貫之の序に人麻呂のことを正三位とあるのは後人が書き加えた偽りである、壬生忠岑は長歌で、人麻呂は喜んでいことだらう、身分は低いのに、言葉を雲の上まで言上していると述べている、もし五位であったとしても身分が低いとはいわないはずである、まして三位の高い位をそのようにいうはずがない…

：古今和歌集の今本の貫之が序に、人麻呂をおほきみつの位と有は、後人の書加へし偽ごと也、同集の忠岑の長歌に、人まろこそは、うれしけれ、身は下ながら、このは、雲の上まで聞しあげといへり、五位ともなれば、身は下ながらといふへからず、まして三位の高き位をや…

狂歌の中の人麻呂

江戸時代後期になると「あしびきの」の歌は、独り寝を寂しく思う歌として狂歌にアレンジされました。『狂歌細画俳百人一首』の柿本人麻呂の項目には「いもりの血ぬるひとり寝の夢さめて赤くそ見ゆる手枕のひち」（独り寝の夢から覚めると手枕にしていた肘が赤い）と書かれており、歌聖や神と慕われた人麻呂の姿はみいだせません。



独り寝の人麻呂

『狂歌細画俳百人一首』文政2[1819]年刊
(請求記号:911.19 キョウ ID:151267936)

江戸時代の人麻呂

江戸時代の人麻呂は、前時代同様に神と崇められる一方で、『万葉集』などの文献研究の進化により歌の作者であることを否定する考証研究が行われたり、歌そのものがパロディ化されたりしました。出版文化の発展は、神格化された人麻呂を一般民衆の手の届く身近な存在として再認識させたといえるでしょう。

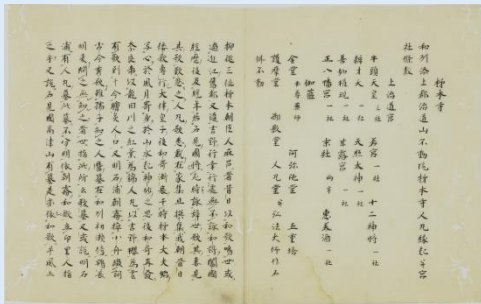


柿本寺と人麻呂

柿本寺

奈良県天理市の^{はるみち}治道に柿本氏の氏寺とされた柿本寺がありました。残存する瓦から奈良時代に創建されたらしいこの寺は、一時は廃れたものの室町時代には再興され『柿本宮曼荼羅』(大和文華館蔵)にその全貌が描かれています。

また江戸時代中期に書かれた『庁中漫録』には、柿本寺とともに上治道宮の記述があり、金堂・阿弥陀堂・五重塔・護摩堂・御影堂・人丸堂・弘法大師作石仏不動を配した伽藍があったと記されています。



柿本寺

『庁中漫録』 椰馬土名勝志 江戸中期
(請求記号:22-1-8 ID:557045647)

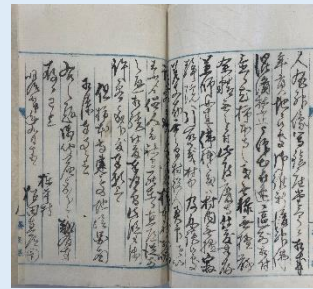
まほ
デジ

柿本寺
和州添上郡治道山不動院柿本寺、人丸縁起并宮社条数
上治道宮
牛頭天皇三社 若宮一社 十二
神将一社(略)
伽藍
金堂 本尊薬師 阿弥陀堂 五
重塔 護摩堂 御影堂 人丸堂
并弘法大師作石仏不動

柿本寺から柿本社へ

明治5(1872)年には、柿本寺は神仏分離のあおりを受け、廃寺改正の届け出を出しています。その文書は櫛本村戸長の名前で奈良県庁宛に出され、寺について以下のように記されています。

(現代語訳) 柿本寺はかつて柿本人丸社であったが万治2(1659)年6月に風災により破壊され、以来は柿本寺と唱えている。薬師如来と人丸神像の鎮座する堂があったが年貢地であった。維新以後は神仏混淆が禁止になったので、速やかに神仏を分けたが、柿本寺は禄もなく檀家もないので全く心配はないから廃寺にしてほしい…(略)…以降は柿本社と唱えたい。



添上郡櫛本村柿本寺廃寺人丸社処分伺

『明治五年中 諸官省願伺届之件 社寺之部』

(請求記:1-M4-22 ID: 556000025)

柿本寺之義ハ往古柿本人丸社二御座候処、万治二年六月風災ニ而破壊ニおよひ其已来柿本寺ト唱、薬師如来并人丸神像等鎮座堂宇ニ相成年貢地二候処、御維新後神仏混淆禁止被仰出候二付、速ニ區別相付置候、尤柿本寺之義無禄・無檀聊余精無之候二付、此度廢寺仕度奉存…(略)…以来柿本社与相唱…



由緒と人麻呂

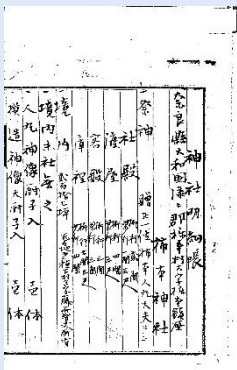
由緒と人麻呂

明治10～20年代(1877～96)の公文書には、人麻呂ゆかりの神社としていくつかの名前があります。ひとつは先述した添上郡櫛本村(現天理市)の柿本神社(元柿本寺)、そして葛下郡柿之本村(現葛城市)の柿本神社、高市郡真菅村(現橿原市)の人麿神社です。

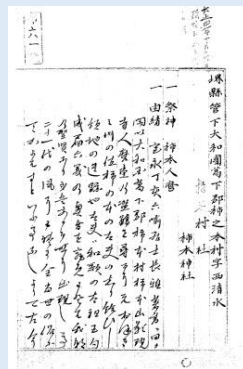
葛下郡の柿本神社は人麻呂が領地を給わり居所があったという由緒をもち、江戸中期の『庁中漫録』でも人丸墳があると認識されています。また高市郡真菅村の人麿神社も由緒によると人麻呂の居宅があったと伝えられています。

今、由緒の真偽を確かめる術はありませんが、江戸時代の文献にも同様の記述があることから、人麻呂とその数々の歌が当時から多くの人々を魅了したがゆえに、様々な伝承が生まれたといえるのではないのでしょうか。

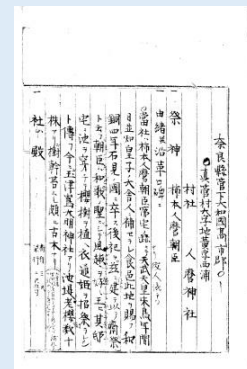
人麻呂に由緒をもつ神社



添上郡櫛本村柿本神社
『神社明細帳』
(請求記号:1-M24-79d
ID:556000935)



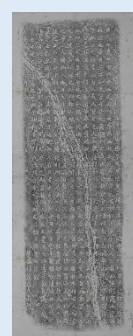
葛下郡柿之本村柿本神社
『明治十二年七月調 大和国葛
下郡神社明細帳』
(請求記号: 1-M12-20d
ID:556000274)



高市郡真菅村人麿神社
『高市郡神社明細帳』
(請求記号:1-M24-83d
ID:556000939)



櫛本柿本寺跡歌塚碑文拓本
「櫛本人麻呂歌碑」
(請求記号:79-3-367 ID:557030959)



葛下郡柿本神社人麿碑銘拓本
「柿本神社人麿碑銘」
(請求記号:79-3-365 ID:557030957)



万葉集研究と奈良

近代の万葉集研究

江戸時代までの万葉集研究は語句を丁寧に読み解く文献学的な研究がほとんどでしたが、明治以降、土地に残された地名や伝承とのかかわりから『万葉集』を理解しようとする万葉地理研究が生まれました。また国民歌集として『万葉集』をとらえる意識が高まり、奈良は万葉集研究の聖地として新たな役割を果たすようになります。

万葉地理研究において先駆的な活動を行った人物に^{たつみとしふみ}辰巳利文の名があげられます。辰巳は明治31(1898)年、南葛城郡忍海村(現御所市)に生まれ、大正4(1915)年17歳で^{ちくはくかい}竹柏会に入り佐佐木信綱に師事しました。大正9(1920)年には竹柏会奈良支部を設立し、その機関誌として『奈良文化』を創刊します(大正11年)。退職まで教職にありながら、終生、奈良に根ざした研究に身を捧げました。

創刊号の巻頭に掲げた発刊の辞では「奈良文化のためにふるひ立つのだ。奈良の文化、奈良の芸術、奈良の教育をどうするのか。奈良を愛する人たちの奮起を切に期待する私達はこの仕事の上に懸命であることを高言してはゝからぬ。」と記し、奈良への郷土愛を高らかに宣言しています。

竹柏会奈良支部と佐佐木信綱

佐佐木信綱は、明治5(1872)年、現鈴鹿市で生まれ、同17(1884)年東京大学文学部古典講習科に入学し、同21(1888)年16歳で卒業します。古典講習科は東京大学に併設された附属教育機関で明治15(1882)年から6年間のみ設置され、21年の二期生の卒業をもって廃止されましたが、極めてすぐれた人材を輩出しました。その中でも佐佐木および落合直文は近代の古典研究を牽引し、国学和歌改良論を展開して、結果的に『万葉集』が国民歌集となる道筋をつくっていきます。

佐佐木は明治32(1899)年に短歌の結社竹柏会を結成し、今も続く機関誌『心の華』(現在は『心の花』)を創刊します。辰巳が創設したのはその竹柏会の奈良支部で、機関誌『奈良文化』も『心の花』を参考にした総合的な雑誌でした。辰巳と佐佐木との交流は終生続き、当館では辰巳宛の佐佐木の書翰や葉書を92点所蔵しています。



創刊号表紙

『奈良文化』
大正11[1922]年刊
(請求記号:210.3-729-1
ID:311067034)



佐佐木信綱原稿

(旧万葉文庫所蔵
辰巳利文宛書簡類)

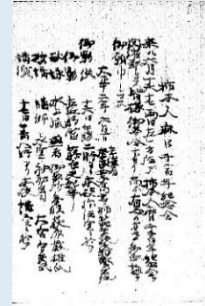
『奈良文化』は昭和11(1936)年の30号まで続きました。辰巳利文は創刊号の編輯後記で「『奈良文化』はたんに歌の雑誌ではない、奈良文化を研究する堂々たる雑誌であるやうにそだてなくてはならぬ」と述べ、奈良にかかわる文化全体を研究する雑誌であるとしています。表紙は薬師寺金堂薬師如来像台座の葡萄唐草文の拓本を採用したといいます。



「愛国の歌人」人麻呂

柿本人麻呂千二百年記念会

大正12(1923)年6月16～17日、奈良女子高等師範学校(現奈良女子大学)で「柿本人麻呂千二百年記念会」が盛大に催されました。伝承によると大正12年は人麻呂没後1200年にあたり、かつて藤原顕季が行った御影供にちなんで6月16日に開催されました。16日午後2時に学校作法室で「御影供」を行い、17日午前8時より講堂にて講演を行っています。講演終了後、歴史標本室で彫刻や絵画・和歌・書籍などの展覧会があり、記念絵葉書も発行されたといひます。このように奈良女子高等師範学校の教授であった佐藤小吉・水木要太郎らを中心に、奈良女子高等師範学校を拠点とする万葉集研究が盛んになるにつれて、人麻呂はじめ郷土史にかかわる研究が進み多くの書籍が出版されました。



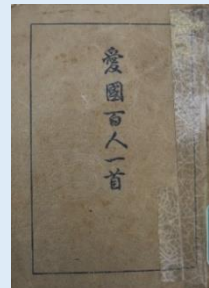
まほ
デジ
柿本人麻呂千二百年
記念会次第
『柿本人麻呂千二百年祭記念会』
(請求記号:090-4-134
ID:151217429)

愛国百人一首

明治以降、『万葉集』は近代日本の国民歌集であり精神的支柱と位置づけられ、人麻呂は新たな役割を担うことになります。日本文学報国会は昭和17(1942)年11月、古代から近世の和歌より「愛国歌」百歌を選んで、愛国百人一首を発表しました。

選者には佐佐木信綱をはじめ当時の国文学を牽引する学者・歌人12名が名を連ね、内閣直属の情報局が認定し、陸軍省・海軍省・文部省・日本放送協会・大政翼賛会が後援しました。太平洋戦争下、国民の戦意高揚を意図したものといえるでしょう。

その第一番の歌としては柿本人麻呂の「おほきみは神にしませば雨雲の雷の上にいほりせるかも」が載せられ、「天子さまは神さまでいらっしゃるから恐しがられてゐる雷丘の上にも御座をおしめになられましたことよ」と解釈し、人麻呂が持統天皇を心から敬っている歌であるとしています。



『愛国百人一首』
昭和17[1942]年刊
(請求記号:911.1-0000
ID:981033328)



『愛国百人一首』
かるた
昭和18[1943]年
(戦争体験文庫非図書資料)

変化するヒトマロ

以上のように、人麻呂の歌や人麻呂自身への解釈は時代によって大きく変化しています。今みえている姿が本当の人麻呂の姿なのか、それは誰にもわかりません。けれどもわからないからこそ、自分の目と頭で「ヒトマロをさがす」意識が求められるのではないのでしょうか。

【解説の主な参考文献】

- 佐佐木信綱編『短歌文学全集』 第一書房 1937. 6
- 小島憲之他校注『日本古典文学全集 万葉集①』 小学館 1994. 5
- 片桐洋一訳・注『古今和歌集』 笠間書院 2005. 9
- 久留島浩・高木博志・高橋一樹編『文人世界の光芒と古都奈良』
思文閣出版 2009. 10
- 国立歴史民俗博物館編『収集家一〇〇年の軌跡 水木コレクションのすべて』
国立歴史民俗博物 1998. 10
- 桜井満『柿本人麻呂論』 桜楓社 1980. 6
- 品田悦一『万葉集の発明』新装版 新曜社 2001. 2
- 品田悦一『「国書」の起源』 新曜社 2019. 2
- 藤田洋治「平安時代の柿本人麿」『女子大国文』(京都女子大学)第171号 2023. 9
- 古橋信孝『柿本人麿』 ミネルヴァ書房 2015. 9
- 吉岡義信「万葉往来(二)」『萬葉』第9号 万葉文庫 1979. 3
- 吉村誠「平安朝の人麻呂像形成」山口大学教育学部編『研究論叢』 58巻 2009. 1
- 『万葉古代学研究所年報』第4号 財団法人奈良県万葉文庫文化振興財団
万葉古代学研究所2006. 3
- 『平成13年度春の特別企画展柿本人麻呂とその時代』(高岡市万葉歴史館 HP より)
- 『第36回奈良県立図書情報館戦争体験文庫資料展示愛国百人一首を読む』
奈良県立図書情報館 2014. 1

展示資料一覧

【展示ケース内の資料】

*の資料は貸し出しできません

請求記号	書名	作成者	出版者	出版年月日	所在
	百人一首かるた	不明	不明	(江戸)	貴重書庫 *
911.12-マ ンヨ-11	萬葉集, 20巻, 11	橘経亮校訂 ; 藤原 以文再校	[京都]: 出雲寺文 治郎	文化 2[1805]	貴重書庫 *
911.12- 75	萬葉集		東京: 尚古會	昭和 3[1928]	貴重書庫 *
911.135- コキン	古今和歌集 20巻	紀友則[ほか撰]	洛下: 菱屋与平 次: 丸屋源兵衛	天和 3[1683]	貴重書庫 *
051.3-コ ウコ-1	諸家説話, [上] 巻1-3, 好古類纂 ; [[第1編]第1-2集]		東京: 好古社事 務所	明治 33[1900]	貴重書庫 *
913.47-コ コン-2	古今著聞集, 20巻, [2]	[橘成季編著]	武江: 高嶋弥兵 衛,	元禄 3[1690]	貴重書庫 *
291.65-ナ ント-7	南都名所集 10巻 (存9巻), 巻第8	[太田叙親, 村井道弘 著]	[出版地不明]: [出版者不明]	[延宝 3(1675)序]	貴重書庫 *
22-1-8	椰馬土名勝志 [庁中漫録: 玉井家 文書]; 8 [添上; 8]	玉井定時		(江戸中期)	貴重書庫 *
911.12-マ ンヨ-1	萬葉集旁註 20巻, 巻第1	惠岳[著]	[出版地不明]: 出 雲寺文治郎: 出 雲寺和泉掾	寛政 1[1789]	貴重書庫 *
911.12-マ ンヨ-1	萬葉集 20巻, 巻第1	橘経亮校訂 ; 藤原 以文再校	[京都]: 出雲寺文 治郎	文化 2[1805]	貴重書庫 *
911.12-マ ンヨ-7	万葉集考 6巻別記6巻埒柿本朝臣 人麻呂歌集之歌, 別記1・2	賀茂真淵翁著述	阪府: 前川善兵 衛	[明治年間 (18--)]	貴重書庫 *
911.19-キ ヨウ	狂歌細画俳百人一首	得閑齋繁雅老撰 ; 得閑齋茂喬補撰 ; 得閑齋砂長次撰 ; 春川五七書畫	[出版地不明]: 林 権兵衛	文政 2 [1819]	貴重書庫 *

1-M4-22	明治五年中 諸官省願伺届之件 社 寺之部 奈良県庁文書	庶務課		1873	書庫 1 *
1-M24- 79d	神社明細帳 奈良県庁文書			1906	書庫 1 *
1-M24- 83d	高市郡神社明細帳 奈良県庁文 書			1896	書庫 1 *
79-3-367	櫟本人磨呂歌碑 森川辰蔵氏収集 資料(拓本)			1933	貴重書庫 *
79-3-365	柿本神社人磨碑銘 森川辰蔵氏収 集資料(拓本)			1934	貴重書庫 *
210.3- 729-1	奈良文化, 創刊號	竹柏會大和支部	奈良 : 竹田書店	1922.2	書庫 1 *
	佐佐木信綱原稿(旧万葉文庫所蔵 辰巳利文宛書簡類)				
911.1- 0000	愛国百人一首	牧野靖史著	大阪 : 国進社出 版部,	1942	書庫 1 *
	愛国百人一首かるた (戦争体験文 庫非図書資料)			1943	

【図書】

1 万葉集とその周辺

請求記号	書名	著者名	出版者	出版年月	所在
069-90-32	UTAMAKURA : 影像・翻訳・万 葉集 (飛鳥資料館図録:第32冊)		奈良国立文化財 研究所飛鳥資料 館	1998.10	ふるさと
080-12- 15.1	万葉集 1 (岩波文庫:黄(30)-005- 1, 黄(30)-005-2, 黄(30)-005-3, 黄(30)-005-4, 黄(30)-005-5)	佐竹昭広 [ほか] 校 注	岩波書店	2013-2015	一般資料
080-12- 15.2	万葉集 2 (岩波文庫:黄(30)-005- 1, 黄(30)-005-2, 黄(30)-005-3, 黄(30)-005-4, 黄(30)-005-5)	佐竹昭広 [ほか] 校 注	岩波書店	2013-2015	一般資料
080-12- 15.3	万葉集 3 (岩波文庫:黄(30)-005- 1, 黄(30)-005-2, 黄(30)-005-3, 黄(30)-005-4, 黄(30)-005-5)	佐竹昭広 [ほか] 校 注	岩波書店	2013-2015	一般資料
080-12- 15.4	万葉集 4 (岩波文庫:黄(30)-005- 1, 黄(30)-005-2, 黄(30)-005-3, 黄(30)-005-4, 黄(30)-005-5)	佐竹昭広 [ほか] 校 注	岩波書店	2013-2015	一般資料

080-12-1.5.5	万葉集 5 (岩波文庫:黄(30)-005-1, 黄(30)-005-2, 黄(30)-005-3, 黄(30)-005-4, 黄(30)-005-5)	佐竹昭広 [ほか] 校注	岩波書店	2013-2015	一般資料
080-6-523	歌道小見 (岩波文庫:5194)	島木赤彦著	岩波書店	1954	書庫 1
080-14-414	万葉集入門 (岩波ジュニア新書:414)	鈴木日出男著	岩波書店	2002.10	書庫 1
080-チクマ	万葉集から古代を読みとく (ちくま新書:1254)	上野誠著	筑摩書房	2017.5	書庫 1
080-チクマ	萬葉集に歴史を読む (ちくま学芸文庫:[モ-13-1])	森浩一著	筑摩書房	2011.2	書庫 1
081.8-78-13	万葉を考える (梅原猛著作集:13)	梅原猛著	集英社	1982.9	書庫 1
210.3-ナオキ	万葉集と歌人たち (直木孝次郎古代を語る:12)	直木孝次郎著	吉川弘文館	2009.9	書庫 1
384.37-タイカ	旅のはじまりと文化の生成	大学教育出版編集部編	大学教育出版	2013.1	一般資料
910.2-レキシ	万葉集を読む (歴史と古典)	古橋信孝編	吉川弘文館	2008.9	一般資料
910.23-サクラ-1	万葉集東歌研究 (櫻井満著作集:第1巻)	櫻井満著	おうふう	2000.3	一般資料
910.23-サクラ-3	万葉集の民俗学的研究 上 (櫻井満著作集:第3,4巻)	櫻井満著	おうふう	2000.4-2000.5	一般資料
910.23-サクラ-4	万葉集の民俗学的研究 下 (櫻井満著作集:第3,4巻)	櫻井満著	おうふう	2000.4-2000.5	一般資料
910.23-サクラ-6	万葉集の風土 (櫻井満著作集:第6巻)	櫻井満著	おうふう	2000.7	一般資料
910.23-ナカニ	万葉の心/古代史で楽しむ万葉集/増補・万葉の花 (中西進著作集:31)	中西進著	四季社	2012.1	一般資料
910.23-フルハ	万葉集 (古代文学講座:8)	古橋信孝, 三浦佑之, 森朝男編集	勉誠社	1996.4	書庫 1
910.263-コマツ	戦争下の文学者たち : 『萬葉集』と生きた歌人・詩人・小説家	小松靖彦著	花鳥社	2021.11	一般資料
910.8-サタケ	萬葉集訓詁 (佐竹昭広集:第1巻)	佐竹昭広著	岩波書店	2009.6	一般資料
911.104-19	万葉学論攷 : 松田好夫先生追悼論文集	松田好夫先生追悼論文編集委員会編	続群書類従完成会	1990.4	書庫 1

911.108-49-4	萬葉集と勅撰和歌集（和歌文学講座:4）		桜楓社	1970.3	書庫 1
911.11-フシワ	上代歌謡と儀礼の表現（研究叢書:535）	藤原享和著	和泉書院	2021.3	一般資料
911.12-49	万葉集を読みなおす：神謡から“うた”へ（NHKブックス:472）	古橋信孝著	日本放送出版協会	1985.1	書庫 1
911.12-94	万葉集新論：万葉情意語の探求	賀古明著	風間書房	1965.3	書庫 1
911.12-108-T	万葉集必携（日本文学必携シリーズ）	五味智英編	學燈社	1967.8	書庫 1
911.12-121-1	萬葉集研究 第1集	五味智英, 小島憲之編	塙書房	1972.4-	一般資料
911.12-125	万葉集の形成	熊谷直春著	翰林書房	2000.5	書庫 1
911.12-126	万葉集と古代史（歴史文化ライブラリー:94）	直木孝次郎著	吉川弘文館	2000.6	書庫 1
911.12-182	夜の船出：古代史からみた萬葉集	直木孝次郎著	塙書房	1985.6	書庫 1
911.12-199	古典文学検証：万葉集を中心に	岡部政裕著	風間書房	1988.8	書庫 1
911.12-206	万葉集：大和の歌五十五話（和泉選書:52）	北谷幸冊著	和泉書院	1990.3	ふるさと
911.12-211	古代国家と万葉集	森田悌著	新人物往来社	1991.9	書庫 1
911.12-229	万葉集研究入門ハンドブック 第2版	森淳司編	雄山閣	1994.5	書庫 1 *
911.12-235-6	万葉集形成の研究/万葉の世界（中西進万葉論集:第6巻）	中西進著	講談社	1995.9	一般資料
911.12-245	万葉集を読む（岩波セミナーブックス:72）	佐佐木幸綱著	岩波書店	1998.4	書庫 1
911.12-250-1	私の万葉集 1（講談社現代新書:1170-1174）	大岡信著	講談社	1993.10-1998.1	書庫 1
911.12-255	万葉集覚書	山田英雄著	岩波書店	1999.6	書庫 1
911.12-256-1995	萬葉集古代の夢	今泉忠芳著	信山社出版	1995.12	ふるさと
911.12-イトウ	万葉集：現代語訳付き 新版 1（角川文庫:16003-16004, 16059-16060）	伊藤博訳注	角川学芸出版/角川グループパブリッシング（発売）	2009.11-2009.12	書庫 1

911.12-イトウ	万葉集を学ぶ 第1集（有斐閣選書）	伊藤博, 稲岡耕二編	有斐閣	1977.12-1978.12	書庫 1
911.12-イノウ	万葉集からみる「世界」（新典社新書:59）	井上さやか著	新典社	2012.7	書庫 1
911.12-ウエノ	奈良の都：万葉集から学ぼう日本のことと言葉	上野誠監修/花村えい子絵/こどもくらぶ編	ミネルヴァ書房	2020.8	書庫 1
911.12-ウエノ	万葉集の基礎知識（角川選書:650）	上野誠, 鉄野昌弘, 村田右富実編	KADOKAWA	2021.4	一般資料
911.12-オオク	古代史家よりみた万葉集	大久保一郎著	溪水社	2008.8	書庫 1
911.12-コウノ	万葉集入門（別冊太陽. 日本のこと:180）	神野志隆光監修	平凡社	2011.4	一般資料
911.12-コハヤ	万葉集で解く古代史の真相（祥伝社新書:482）	小林恵子 [著]	祥伝社	2016.10	一般資料
911.12-コミト	萬葉集の作家と作品	五味智英著	岩波書店	1982.11	書庫 1
911.12-サカモ	図説地図とあらすじで読む万葉集	坂本勝監修	青春出版社	2006.7	書庫 1
911.12-ササキ	万葉集の「われ」（角川選書:408）	佐佐木幸綱著	角川学芸出版/角川グループパブリッシング（発売）	2007.4	書庫 1
911.12-ササキ	万葉集の歌とことば：姿を知りうる最古の日本語を読む	佐佐木隆著	青土社	2021.4	一般資料
911.12-ササキ-2022	愛するよりも愛されたい（令和言葉・奈良弁で訳した万葉集:1）	佐々木良 [訳]	万葉社	2022.10	ふるさと
911.12-ササキ-2023	太子の少年（令和言葉・奈良弁で訳した万葉集:2）	佐々木良訳	万葉社	2023.7	ふるさと
911.12-サトウ	万葉集の伝承と創造	佐藤文義著	桜楓社	1983.10	書庫 1
911.12-タシト	『万葉集』における帝的世界と「感動」	トークイル・ダシー著/青山学院大学文学部日本文学科編	笠間書院	2017.3	一般資料
911.12-タシト	万葉集と帝國的想像	トークイル・ダシー著/品田悦一, 北村礼子訳	花鳥社	2023.11	一般資料

911.12-タ ツミ	奈良朝詩学研究：万葉集の系統 発生と個体発生	辰巳正明著	新典社	2022.12	一般資料
911.12-タ ツミ	『万葉集』と東アジア（古代文学 と隣接諸学:9)	辰巳正明編	竹林舎	2017.9	一般資料
911.12-タ ツミ	万葉集の歴史：日本人が歌によ って築いた原初のヒストリー	辰巳正明著	笠間書院	2011.10	書庫 1
911.12-ニ シミ	万葉集探訪	西宮正泰著	文芸社	2011.5	書庫 1
911.12-ハ ラタ	万葉集の編纂資料と成立の研究	原田貞義著	おうふう	2002.11	書庫 1
911.12-ヤ マク	万葉集形成の謎	山口博著	桜楓社	1983.11	書庫 1
911.12-ヨ シム	へたな人生論より万葉集	吉村誠著	河出書房新社	2009.3	書庫 1
911.122- 30	万葉歌人論：その問題点をさぐ る	犬養孝編	明治書院	1987.3	書庫 1
911.124- イマイ	萬葉集作者未詳歌巻の読解：歌 とその神話・祭祀・法制・政治な ど	今井優著	和泉書院	2005.9	書庫 1
911.124- ナカニ	万葉集：全訳注原文付	中西進著	講談社	1984.9	書庫 1
911.125- セキヤ	万葉集羈旅歌論（楡文叢書）	関谷由一著	北海道大学出版 会	2021.3	一般資料
911.125- チステ	地図で巡る万葉集		昭文社	2019.7	一般資料
911.126- 18-T	万葉集大和歌枕考	大井重二郎著	曼陀羅社/スズカ ケ書店（発売）	1933	書庫 1
911.135- ウサミ	古今和歌集論：万葉集から平安 文学へ	宇佐美昭徳著	笠間書院	2008.6	書庫 1
913.2-ミ タニ	記紀万葉集の世界	三谷栄一著	有精堂出版	1984.5	書庫 1
918-5-2	萬葉集（図説日本の古典:2）	伊藤博 [ほか] 著	集英社	1978.4	書庫 1
918-10-2	萬葉集 1（日本古典文学全集:2-5）	小島憲之, 木下正俊, 佐竹昭広校注・訳	小学館	1971.1- 1975.10	書庫 1
918-24-21	万葉集（古典を読む:21）	大岡信著	岩波書店	1985.4	書庫 1
918-ニシ ユ	万葉集ほか（21世紀版少年少女古 典文学館:24）	大岡信著	講談社	2010.3	一般資料

918-ニホン	万葉集（日本の古典をよむ:4）	小島憲之，木下正俊， 東野治之校訂・訳	小学館	2008.4	一般資料
---------	-----------------	------------------------	-----	--------	------

2 柿本人麻呂

請求記号	書名	著者名	出版者	出版年月	所在
080-23-1.164	柿本人麻呂論（岩波現代文庫:学術:164）	北山茂夫著	岩波書店	2006.9	書庫 1
081-9-869	柿本人麻呂（岩波新書:青版 869）	北山茂夫著	岩波書店	1973.9	書庫 1
081.8-78-14	歌の復籍（梅原猛著作集:14）	梅原猛著	集英社	1982.11	書庫 1
175.9-カキノ-2013	神になった柿本人麻呂：人丸信仰の調査と報告書		犬養万葉記念館に協力する会	2013.1	書庫 1
210.3-サイキ	古事記の編集室：安万侶と人麿たち	斎木雲州著	大元出版	2011.11	書庫 1
210.3-フルタ	人麿の運命（古田武彦・古代史コレクション:11）	古田武彦著	ミネルヴァ書房	2012.4	書庫 1
217.3-セキカ	古代石見の誘い道：人麻呂と神々と道	関和彦著	今井印刷/今井出版(発売)	2015	書庫 1
280.8-シンフ	柿本人麻呂（人物叢書:[288]）	多田一臣著	吉川弘文館	2017.6	一般資料
289.1-イクノ	学び来たわが歲月：柿本のかぎろひと共に	生野長次著/村野昌詮編	昌文社	1985.1	書庫 1
370.8-22	柿本人麿・山上憶良・大伴家持（日本教育家文庫:第8巻）	志田延義著	啓文社	1938.12	書庫 1
910.22-18-2	柿本人麻呂（古代の文学:2）	山路平四郎，窪田章一郎編	早稲田大学出版部	1976.4	書庫 1
910.23-コタイ-45	古代中世文学論考 第45集	古代中世文学論考刊行会編	新典社	2021.10	一般資料
910.8-41-3	舎人人麿/憶良と旅人（高木市之助全集:3）	高木市之助著	講談社	1976.8	書庫 1
910.8-49-3	柿本人麻呂：謎の歌聖（日本の作家:3）	橋本達雄著	新典社	1984.4	書庫 1
910.8-50-2	万葉集：人麻呂と人麻呂歌集（日本文学研究資料新集:2）	身崎壽編	有精堂出版	1989.10	一般資料
910.8-マキノ	人麻呂、子規、文明のことなど（樗木亭雑録:[1]）	牧野博行著	短歌新聞社	2000.2	書庫 1

911.102- ワカフ	柿本人麻呂（コレクション日本歌 人選:001）	高松寿夫著	笠間書院	2011.3	一般資料
911.108- 50-2	柿本人麻呂（日本詩人選:2）	中西進著	筑摩書房	1970.11	書庫 1
911.108- 57-17	人麻呂集/赤人集/家持集（和歌文 学大系:17）	[柿本人麻呂著]/阿 蘇瑞枝 [校注]/[山部 赤人著]/阿蘇瑞枝 [校注]/[大伴家持 著]/阿蘇瑞枝 [校注]	明治書院	2004.2	一般資料
911.12- 122-2	柿本人麻呂 1（セミナー万葉の歌 人と作品:第2巻）		和泉書院	1999.9	書庫 1
911.12- 122-3	柿本人麻呂・高市黒人・長奥麻 呂・諸皇子たち他（セミナー万葉 の歌人と作品:第3巻）		和泉書院	1999.12	書庫 1
911.12- 235-7	万葉集原論/柿本人麻呂（中西進 万葉論集:第7巻）	中西進著	講談社	1995.11	一般資料
911.12-イ マイ	柿本朝臣人麿之詞集七夕歌	今泉忠芳著	御津磯夫記念館	2007.5	書庫 1
911.12-シ ミス	万葉論集：石見の人麻呂他 (Sekaishiso seminar)	清水克彦著	世界思想社	2005.9	一般資料
911.12-ユ ウア	詞林采葉抄/人丸集（冷泉家時雨 亭叢書:第78巻）	由阿 [著]/冷泉家時 雨亭文庫編/柿本人 麻呂 [著]/冷泉家時 雨亭文庫編	朝日新聞社	2005.6	書庫 1
911.12-ワ タセ	人麻呂歌集略体歌論 上（渡瀬昌 忠著作集:第1-2巻）	渡瀬昌忠著	おうふう	2002.9- 2002.10	書庫 1
911.12-ワ タセ	人麻呂歌集略体歌論 下（渡瀬昌 忠著作集:第1-2巻）	渡瀬昌忠著	おうふう	2002.9- 2002.10	書庫 1
911.12-ワ タセ	人麻呂歌集非略体歌論 上（渡瀬 昌忠著作集:第3巻）	渡瀬昌忠著	おうふう	2002.11	書庫 1
911.12-ワ タセ	万葉集と人麻呂歌集（渡瀬昌忠著 作集:第5巻）	渡瀬昌忠著	おうふう	2003.1	書庫 1
911.12-ワ タセ	柿本人麻呂作歌論（渡瀬昌忠著作 集:第7巻）	渡瀬昌忠著	おうふう	2003.3	書庫 1
911.122-1	人麻呂抄	吉村貞司著	鎌倉書房	1943	書庫 1
911.122-3	短歌讀本柿本人麻呂	窪田空穂著	新聲閣	1942	書庫 1
911.122-6	柿本人麻呂（名著シリーズ）	山本健吉著	講談社	1968.4	書庫 1

911.122-6	柿本人麿 總論篇	斎藤茂吉著	岩波書店	1934-1941	書庫 1
911.122-7	人麿と其歌：全	樋口功著	有朋堂	1925.11	書庫 1
911.122-8	柿本人麿 鴨山考補註篇	斎藤茂吉著	岩波書店	1934-1941	書庫 1
911.122-13	柿本人麿屋敷考：人麿は桜井に住んでいた	吉岡義信著	吉岡義信	1976.3	書庫 1
911.122-13-1	水底の歌：柿本人麿論 上	梅原猛著	新潮社	1973	書庫 1
911.122-13-2	水底の歌：柿本人麿論 下	梅原猛著	新潮社	1973	ふるさと *
911.122-15	柿本人麻呂と鴨山	矢富熊一郎著	益田郷土史矢富会	1964.11	書庫 1
911.122-15	人麻呂歌集と人麻呂伝（塙選書:46）	神田秀夫著	塙書房	1965.4	書庫 1
911.122-16	播州明石浦柿本大夫祠堂碑銘ならびに柿本人麻呂作歌集	芦田邦一編	柿本人麿奉讃会	1972.9	書庫 1
911.122-17	秘められた挽歌：柿本人麻呂と高市皇子	末田重幸著	講談社	1977.11	ふるさと *
911.122-18	柿本人麻呂論	桜井満著	桜楓社	1980.6	書庫 1
911.122-23	石見の人麻呂	都筑省吾著	河出書房新社	1981.2	書庫 1
911.122-24-3T	柿本人麿 評釋篇・上	斎藤茂吉著	岩波書店	1934-1941	書庫 1
911.122-24-4T	柿本人麿 評釋篇・下	斎藤茂吉著	岩波書店	1934-1941	書庫 1
911.122-24-5T	柿本人麿 雜纂篇	斎藤茂吉著	岩波書店	1934-1941	書庫 1
911.122-27	昏灯（しとう）柿本人麿呂	柿花仄著	東京経済	2000.8	書庫 1
911.122-33	柿本人麻呂：人と作品	中西進編	桜楓社	1989.5	書庫 1
911.122-34	柿本人麻呂攷（新典社研究叢書:18）	菊池威雄著	新典社	1987.10	ふるさと *
911.122-37	人麻呂伝説	大和岩雄著	白水社	1991.2	書庫 1
911.122-40	人麻呂の表現世界：古体歌から新体歌へ	稲岡耕二著	岩波書店	1991.7	書庫 1

911.122-46	人麻呂の実像	大和岩雄著	大和書房	1990.2	ふるさと *
911.122-48	柿本人麻呂研究：古代和歌文学の成立	神野志隆光著	塙書房	1992.4	書庫 1
911.122-49	人麻呂の暗号	藤村由加著	新潮社	1989.1	書庫 1
911.122-アオキ	柿本人麻呂（萬葉集歌人研究叢書:3）	武田祐吉著	クレス出版	2004.4	書庫 1
911.122-アオキ	人麻呂抄（萬葉集歌人研究叢書:5）	吉村貞司著	クレス出版	2004.4	書庫 1
911.122-アオキ	人麿の世界（萬葉集歌人研究叢書:4）	森本治吉著	クレス出版	2004.4	書庫 1
911.122-カキノ	柿本人麻呂：ことばとところの探求	倉住薫著	笠間書院	2011.1	一般資料
911.122-カキノ	柿本人麻呂と和歌史（研究叢書:307）	村田右富実著	和泉書院	2004.1	書庫 1
911.122-カキノ	柿本人麻呂の栄光と悲劇：『万葉集』の謎を解く	池野誠著	山陰文藝協会	2016.9	一般資料
911.122-カキノ	柿本人麻呂の詩学	西條勉著	翰林書房	2009.5	一般資料
911.122-カキノ	柿本人麻呂の時代と表現	菊地義裕著	おうふう	2006.2	一般資料
911.122-カキノ	柿本人麻呂の石見	神 英雄著	自照社出版	2010.4	書庫 1
911.122-カキノ	柿本人麻呂作品研究序説（古代文学研究叢書:9）	岩下武彦著	若草書房	2004.2	書庫 1
911.122-カキノ	柿本人麿：神とあらはれし事もたびたびの事也（ミネルヴァ日本評伝選）	古橋信孝著	ミネルヴァ書房	2015.9	一般資料
911.122-カキノ	柿本人麿異聞（和泉選書:138）	片桐洋一著	和泉書院	2003.10	書庫 1
911.122-カキノ	人麻呂の工房：[布装]	稲岡耕二著	塙書房	2011.5	書庫 1
911.122-カキノ	人麻呂の作歌活動	上野理著	汲古書院	2000.3	書庫 1
911.122-カキノ	人麻呂の方法：時間・空間・「語り手」（北海道大学大学院文学研究科研究叢書:7）	身崎寿著	北海道大学図書刊行会	2005.1	書庫 1

911.122-カキノ	人麿の謎を解く	土淵正一郎著	新人物往来社	1989.11	書庫 1
911.122-カキノ	万葉の巨星柿本人麻呂：その知られざる生涯	上杉省和著	知泉書館	2020.3	一般資料
911.122-カキノ	万葉歌の天才：人麿の恋	斎木雲州著	大元出版	2009.10	書庫 1
911.124-11-2	柿本人麿（作者別萬葉集評釋:第2巻）	窪田空穂著	非凡閣	1935.11	書庫 1
911.124-ハマク	万葉集宮廷歌人全注釈：虫麻呂・赤人・金村・千年（新典社選書:24）	濱口博章著	新典社	2009.4	書庫 1
911.126-44	大鳥の羽貝の山考（人麿研究シリーズ:1）	生田蝶介著	吾妹荘	1967.3	ふるさと*
911.128-4	柿本人麿（評註：日本名歌撰:第一篇）	尾山篤三郎著	抒情詩社	1916.11	書庫 1
911.128-7	柿本人麿歌集：全	金子元臣編	明治書院	1905.2	書庫 1
911.128-カキノ	人麿集全釈（私家集全釈叢書:34）	[柿本人麻呂原著]/島田良二著	風間書房	2004.9	一般資料
911.157-ツルサ	月照寺明石柿本社奉納和歌集	鶴崎裕雄, 神道宗紀, 小倉嘉夫編著	和泉書院	2011.8	一般資料
918.6-208-15	斎藤茂吉全集 第15巻	斎藤茂吉著	岩波書店	1973-1976	書庫 1
918.6-208-16	斎藤茂吉全集 第16巻	斎藤茂吉著	岩波書店	1973-1976	書庫 1
918.6-208-17	斎藤茂吉全集 第17巻	斎藤茂吉著	岩波書店	1973-1976	書庫 1
918.6-208-18	斎藤茂吉全集 第18巻	斎藤茂吉著	岩波書店	1973-1976	書庫 1
918.6-ケンタ	斎藤茂吉集（現代日本文学大系:38）		筑摩書房	1969.11	一般資料

3 人麻呂の時代

請求記号	書名	著者名	出版者	出版年月	所在
080-チュウ-1681	藤原京：よみがえる日本最初の都城（中公新書:1681）	木下正史著	中央公論新社	2003.1	書庫 1
210.02-センタ-2000	飛鳥・藤原京の謎を掘る	千田稔, 金子裕之共編著	文英堂	2000.3	ふるさと

210.08-ニ ホン	藤原京の形成（日本史リブレット:6）	寺崎保広著	山川出版社	2002.3	一般資料
210.3-5	天平の文化 上		朝日新聞社	1942.12- 1943.1	書庫 1
210.3-6	天平の文化 下		朝日新聞社	1942.12- 1943.1	書庫 1
210.3-コ タイ	飛鳥から藤原京へ（古代の都:1）	木下正史, 佐藤信編	吉川弘文館	2010.12	一般資料
210.3-ナ ラケ-2021	大和の古代文化	奈良県立万葉文化館 編	新典社	2021.10	ふるさと
210.3-フ ルタ	古代史の争点：「邪馬台国」、 倭の五王、聖徳太子、大化の改 新、藤原京と王朝交代（古代に真 実を求めて：古田史学論集:第25 集）	古田史学の会編	明石書店	2022.3	一般資料
210.3-ヨ シム	律令制国家と古代社会	吉村武彦編	塙書房	2005.5	書庫 1
210.3-ヨ シム	律令制国家の理念と実像	吉村武彦編	八木書店出版部/ 八木書店（発売）	2022.5	一般資料
210.3-ワ タナ	万葉集があばく捏造された天皇・ 天智 上	渡辺康則著	大空出版	2013.10	書庫 1
210.3-ワ タナ	万葉集があばく捏造された天皇・ 天智 下	渡辺康則著	大空出版	2013.10	書庫 1
210.33-48	飛鳥藤原京（研究史）	八木充著	吉川弘文館	1996.11	書庫 1
210.33-コ ウリ-2017	飛鳥・藤原京を読み解く：古代 国家誕生の軌跡	奈良文化財研究所編	クバプロ	2017.10	ふるさと
210.33-シ ケミ-2020	日本古代都城の形成と王権	重見泰著	吉川弘文館	2020.11	ふるさと
210.33-テ ラサ-2003	飛鳥古京・藤原京・平城京の謎	寺沢龍著	草思社	2003.5	ふるさと
210.33-ト ヨシ-2016	ここまでわかった飛鳥・藤原京： 倭国から日本へ	豊島直博, 木下正史 編	吉川弘文館	2016.8	ふるさと
210.33-ハ ヤシ	飛鳥の宮と藤原京：よみがえる 古代王宮（歴史文化ライブラリ ー:249）	林部均著	吉川弘文館	2008.2	一般資料

210.34-22	天武・持統朝の時代（東アジアの古代文化:40号）		大和書房	1984.7	ふるさと *
210.34-35-1994	藤原京千三百年：飛鳥・奈良の宮都	小松左京, 石倉明編	有學書林	1994.12	ふるさと
210.34-イノウ-2008	日本古代都城制の研究：藤原京・平城京の史的意義	井上和人著	吉川弘文館	2008.4	ふるさと
210.34-コハモ-2018	飛鳥藤原京の山河意匠：地形幾何学の視点	木庭元晴著	関西大学出版部	2018.3	ふるさと
210.34-シンシ-2021	実在した倭京：藤原京先行条坊の研究	新庄宗昭著	ミネルヴァ書房	2021.11	ふるさと
210.34-タケタ-2022	都城藤原京の研究	竹田政敬著	同成社	2022.7	ふるさと
210.34-タツミ-2014	天智・天武死の秘密：万葉集を読み解く	立美洋著	三一書房	2014.7	ふるさと *
210.35-キモト	奈良時代貴族官人と女性の政治史（日本史研究叢刊:45）	木本好信著	和泉書院	2022.10	一般資料
288.41-シトウ-2020	持統天皇をめぐる物語：マンガで語る古代大和Ⅲ：特別展	奈良県立万葉文化館編	奈良県立万葉文化館	2020	ふるさと *
708.7-ナラケ-2016	古代への憧憬：近代に花開いた古典の美：特別展	奈良県立万葉文化館編	奈良県立万葉文化館	[2016]	ふるさと *
709.1-ナラフ	文化財学の新地平	国立文化財機構奈良文化財研究所編	国立文化財機構奈良文化財研究所/吉川弘文館（発売）	2013.5	一般資料
910.23-イイ	王権と民の文学：記紀の論理と万葉人の生き様	飯泉健司著	武蔵野書院	2020.10	一般資料
911.102-ワカフ	高橋虫麻呂と山部赤人（コレクション日本歌人選:061）	多田一臣著	笠間書院	2018.11	一般資料
911.12-オオタ	持統万代集：『万葉集』の成立	太田光一著	郁朋社	2010.5	一般資料
911.12-カナイ	古代抒情詩『万葉集』と令制下の歌人たち	金井清一著	笠間書院	2019.8	一般資料
911.12-コハヤ-2006	大伴家持の暗号：編纂者が告発する大和朝廷の真相（本当は怖い万葉集:完結編）	小林恵子著	祥伝社	2006.11	ふるさと

911.12-ツクシ	女帝たちの万葉集	筑紫磐井著	角川学芸出版/角川グループパブリッシング(発売)	2010.2	一般資料
911.12-ネモト	万葉のあけぼの：天智天皇・天武天皇・額田王他（ジュニアのための万葉集:1）	根本浩文	汐文社	2010.2	書庫 1
911.12-ネモト	都人たち：持統天皇・志貴皇子・柿本人麻呂他（ジュニアのための万葉集:2）	根本浩文	汐文社	2010.3	書庫 1
911.12-ネモト	平城の京：山部赤人・山上憶良・大伴旅人他（ジュニアのための万葉集:3）	根本浩文	汐文社	2010.3	書庫 1
911.12-ネモト	天平の風：大伴家持・東歌・防人歌他（ジュニアのための万葉集:4）	根本浩文	汐文社	2010.3	書庫 1
911.12-マツオ	万葉集とその時代	松尾光著	笠間書院	2009.4	書庫 1

4 江戸時代の万葉集研究

請求記号	書名	著者名	出版者	出版年月	所在
081-42-59.1	万葉集略解 第1(覆刻日本古典全集)	橘千蔭著/与謝野寛 [ほか]編纂校訂	現代思潮社	1982.9	書庫 1
081-42-59.2	万葉集略解 第2(覆刻日本古典全集)	橘千蔭著/与謝野寛 [ほか]編纂校訂	現代思潮社	1982.9	書庫 1
081-42-59.3	万葉集略解 第3(覆刻日本古典全集)	橘千蔭著/与謝野寛 [ほか]編纂校訂	現代思潮社	1982.9	書庫 1
081-42-59.4	万葉集略解 第4(覆刻日本古典全集)	橘千蔭著/与謝野寛 [ほか]編纂校訂	現代思潮社	1982.9	書庫 1
081-42-59.5	万葉集略解 第5(覆刻日本古典全集)	橘千蔭著/与謝野寛 [ほか]編纂校訂	現代思潮社	1982.9	書庫 1
081-42-59.6	万葉集略解 第6(覆刻日本古典全集)	橘千蔭著/与謝野寛 [ほか]編纂校訂	現代思潮社	1982.9	書庫 1
081-42-59.7	万葉集略解 第7(覆刻日本古典全集)	橘千蔭著/与謝野寛 [ほか]編纂校訂	現代思潮社	1982.9	書庫 1
081-42-59.8	万葉集略解 第8(覆刻日本古典全集)	橘千蔭著/与謝野寛 [ほか]編纂校訂	現代思潮社	1982.9	書庫 1
081-42-60	万葉集品物図絵(覆刻日本古典全集)	鹿持雅澄著/与謝野寛 [ほか]編纂校訂	現代思潮社	1982.9	書庫 1

081-42-87	賀茂真淵集（覆刻日本古典全集）	与謝野寛〔ほか〕編 纂校訂	現代思潮社	1983.3	書庫 1
081.8-42-10	長流全集 上（契沖全集:第10-11巻）	佐々木信綱〔ほか〕共編	朝日新聞社	1927.6-1927.11	書庫 1
081.8-42-11	長流全集 下（契沖全集:第10-11巻）	佐々木信綱〔ほか〕共編	朝日新聞社	1927.6-1927.11	書庫 1
108-14-39	近世神道論/前期國學（日本思想大系:39）	平重道校注/阿部秋生校注	岩波書店	1972.7	一般資料
121-51	賀茂真淵と本居宣長 増訂	佐々木信綱著	湯川弘文堂	1935.1	書庫 1
121-55	賀茂真淵の學問	井上豊著	八木書店	1943.11	書庫 1
121.08-9-6	本居宣長全集 第6巻	本居宣長〔著〕/大野晋, 大久保正編集校訂	筑摩書房	1968-1993	書庫 1
121.08-9-18	本居宣長全集 第18巻	本居宣長〔著〕/大野晋, 大久保正編集校訂	筑摩書房	1968-1993	書庫 1
121.2-21	賀茂真淵論	山本嘉将著	初音書房	1963	書庫 1
121.2-28	契沖の生涯（日本文化名著選）	久松潜一著	創元社	1942.1	書庫 1
121.2-29	賀茂真淵傳	小山正著	春秋社/松柏館(発売)	1938.9	書庫 1
121.2-35	賀茂真淵の人と思想	荒木良雄	厚生閣	1943.5	書庫 1
121.2-39-1	賀茂真淵全集 第1巻		続群書類従完成会	1977.4-1992.1	書庫 1
121.2-39-2	賀茂真淵全集 第2巻		続群書類従完成会	1977.4-1992.1	書庫 1
121.2-39-3	賀茂真淵全集 第3巻		続群書類従完成会	1977.4-1992.1	書庫 1
121.2-39-4	賀茂真淵全集 第4巻		続群書類従完成会	1977.4-1992.1	書庫 1
121.2-39-5	賀茂真淵全集 第5巻		続群書類従完成会	1977.4-1992.1	書庫 1
121.2-49	契沖研究	築島裕〔ほか〕著	岩波書店	1984.1	書庫 1
121.2-55	國文学研究史：契沖・春満抄	三宅清著	三宅清	1987.9	書庫 1
121.2-64	賀茂真淵とその門流	真淵生誕三百年記念論文集刊行会編	続群書類従完成会	1999.2	書庫 1
121.52-3	契沖 新装版（人物叢書）	久松潜一著	吉川弘文館	1989.8	書庫 1
121.52-カタア	日本書紀歌謡・万葉集（新編荷田春満全集:第4巻）	〔荷田春満著〕/新編荷田春満全集編集委員会編	おうふう	2005.11	書庫 1

121.52-カタア	万葉集 下 (新編荷田春満全集:第5巻)	[荷田春満著]/新編 荷田春満全集編集委員会編	おうふう	2006.5	書庫 1
121.52-カモマ	賀茂真淵の研究	高野奈未著	青簡舎	2016.2	一般資料
121.52-ケイチ	萬葉代匠記 1 (契沖全集:第1-7巻)	築島裕 [ほか] 編集	岩波書店	1973-1975	書庫 1
121.52-ケイチ	萬葉代匠記 2 (契沖全集:第1-7巻)	築島裕 [ほか] 編集	岩波書店	1973-1975	書庫 1
121.52-ケイチ	萬葉代匠記 3 (契沖全集:第1-7巻)	築島裕 [ほか] 編集	岩波書店	1973-1975	書庫 1
121.52-ケイチ	萬葉代匠記 4 (契沖全集:第1-7巻)	築島裕 [ほか] 編集	岩波書店	1973-1975	書庫 1
121.52-ケイチ	萬葉代匠記 5 (契沖全集:第1-7巻)	築島裕 [ほか] 編集	岩波書店	1973-1975	書庫 1
121.52-ケイチ	萬葉代匠記/厚顔抄 (契沖全集:第7巻)	築島裕 [ほか] 編集	岩波書店	1974.8	書庫 1
121.52-タチハ	萬葉集千別/萬葉集略解直日 (橘守部著作集 : 未刊影印:第5巻)	橘守部著/慶応義塾 大学附属研究所斯道 文庫編	汲古書院	1980.6	書庫 1
121.52-タチハ	萬葉集要解/檜孺手 (橘守部著作集 : 未刊影印:第4巻)	橘守部著	汲古書院	1980.3	書庫 1
170.8-5-7.24	賀茂真淵 (神道大系:論説編 24. 復古神道:2)	太田善磨校注	神道大系編纂会	1988.3	一般資料
280.8-26-67	賀茂真淵 (人物叢書)	三枝康高著	吉川弘文館	1987.7	書庫 1
910.23-マエタ	戦乱で躍動する日本中世の古典学	前田雅之著	文学通信	2024.7	一般資料
910.8-36-12	契沖伝 (久松潜一著作集:12)	久松潜一著	至文堂	1969.10	書庫 1
911.12-98-T	萬葉集問答 : 全 (萬葉学叢書:第1編)	田中道麿問/本居宣 長答/赤木邦輔, 尾 山篤二郎校訂	紅玉堂書店	1926.8	書庫 1
911.12-120-1	萬葉集燈 (萬葉集叢書:第1輯)	富士谷御杖著/島木 赤彦校訂解説	臨川書店	1972.11	書庫 1
911.12-120-2	萬葉集僻案抄 (萬葉集叢書:第2輯)	荷田春満著/[久保田 俊彦校訂]	臨川書店	1972.11	書庫 1
911.12-120-3	萬葉集檜孺手 : 一名萬葉集檜爪 (萬葉集叢書:第3輯)	橘守部著/[折口信夫 校訂]	臨川書店	1972.11	書庫 1

911.12-120-4	萬葉考梲落葉（萬葉集叢書:第4輯）	荒木田久老著/[久保田俊彦校訂]	臨川書店	1972.11	書庫 1
911.12-120-12	萬葉集管見（萬葉集叢書:第6輯）	下河邊長流著/武田祐吉校訂/橋本進吉解説	臨川書店	1972.11	書庫 1
911.12-オオイ	近世初期『万葉集』の研究：北村季吟と藤原惺窩の受容と継承（研究叢書:485）	大石真由香著	和泉書院	2017.2	一般資料
911.12-カタヤ	賀茂真淵門流の万葉集研究（万葉叢書:11）	片山武著	万葉書房	2014.12	一般資料
911.12-シロサ	近世国学と万葉集研究	城崎陽子著	おうふう	2009.6	一般資料
911.12-シロサ	万葉集の編纂と享受の研究	城崎陽子著	おうふう	2004.5	書庫 1
911.12-ナラシ-2020	近世萬葉学：契沖を中心に：第15回若手研究者支援プログラム：報告集	奈良女子大学古代学・聖地学研究センター編集	奈良女子大学古代学・聖地学研究センター	2020.3	ふるさと*
911.124-16-3	萬葉集檜孺手：一名萬葉集檜爪3版（萬葉集叢書:第3輯）	橘守部著/折口信夫校訂	古今書院	1924.12	書庫 1
911.13-シノタ	和歌と日本語：万葉集から新古今集まで	篠田治美著	藤原書店	2012.12	書庫 1
911.158-カモマ	賀茂真淵歌集の研究	田林義信著	風間書房	1966.4	書庫 1
911.15-タナカ	江戸の長歌：『万葉集』の享受と創造	田中仁著	森話社	2012.3	一般資料
918-2-3	萬葉集仙覚抄/詞林采要抄/萬葉緯/和歌童蒙抄（國文註釋全書）	室松岩雄編	國學院大學出版部	1910.8	書庫 1
918-2-12	物語註釋十二種：附神楽歌催馬楽註釋二種（國文註釋全書）	室松岩雄編輯	國學院大學出版部	1910.7	書庫 1

5 近代の万葉集研究

請求記号	書名	著者名	出版者	出版年月	所在
080-11-21	万葉集：新訓 新訂 上巻（岩波版 ほるぷ図書館文庫）	佐々木信綱編	岩波書店	1975.9	書庫 1
121.08-8-6	萬葉集（日本思想叢書:第6編）	[久松潜一校訂解説]	文部省社會教育局	1932	書庫 1
121.1-58	萬葉集に現れたる日本精神	久松潜一著	至文堂	1937.1	書庫 1

210.04-タ カキ-2000	「聖地」大和の形成：近代天皇 制と文化	高木博志〔ほか〕研 究	[高木博志]	2000.3	ふるさと *
210.61-メ イシ	明治維新と宗教・文化（講座明治 維新:11）	明治維新史学会編	有志舎	2016.3	一般資料
289.1- 1416-112	佐佐木信綱：作歌八十二年（人間 の記録:112）	佐佐木信綱著	日本図書センタ ー	1999.12	書庫 1
289.1-ミ スキ-2009	文人世界の光芒と古都奈良：大 和の生き字引・水木要太郎	久留島浩，高木博志， 高橋一樹編	思文閣出版	2009.10	ふるさと
908.1-4- 21	新訓万葉集 新訂 上巻（岩波文庫： 特装版）	佐佐木信綱編	岩波書店	1997.2	書庫 1
908.1-4- 22	新訓万葉集 新訂 下巻（岩波文庫： 特装版）	佐佐木信綱編	岩波書店	1997.2	書庫 1
910-アン ト	佐佐木信綱：本文の構築（近代 「国文学」の肖像:第3巻）	鈴木健一著	岩波書店	2021.2	一般資料
910-マン ヨ-Z	万葉古代学研究所年報;4号		奈良県万葉文化 振興財団万葉古 代学研究所	2006.3	書庫 1 *
910.7-シ ナタ	「国書」の起源：近代日本の古 典編成	品田悦一，齋藤希史 著	新曜社	2019.9	一般資料
910.8-36- 7	万葉集の研究 1（久松潜一著作 集:7,8）	久松潜一著	至文堂	1969	書庫 1
910.8-44- 1	万葉集 増補 上（国語国文学研究 史大成:1-2）	武田祐吉[等]編著	三省堂	1977.5	書庫 1
911.105-5	萬葉：万葉文庫「万葉研究会」 報;9号		橿原図書館内万 葉文庫	1979.3	書庫 1 *
911.12-17	仙覺及び仙覺以前の萬葉集の研究 （萬葉集の研究:[第1]）	佐佐木信綱著	岩波書店	1942.2	書庫 1
911.12- 27-1	萬葉集大成 第1巻：総記篇	澤瀉久孝〔ほか〕編	平凡社	1953-1956	書庫 1
911.12-30	萬葉集の新研究 増訂（國文學研 究叢書:第1編）	久松潜一著	至文堂	1929	書庫 1
911.12- 45-1	萬葉集研究 上	斎藤茂吉編	岩波書店	1940.10	書庫 1
911.12- 45-2	萬葉集研究 下	斎藤茂吉編	岩波書店	1940.10	書庫 1
911.12-47	萬葉集考説	久松潜一著	栗田書店	1935	書庫 1

911.12-66	萬葉集の批評と鑑賞	窪田空穂著	岩波書店	1948.5	書庫 1
911.12-72	作者類別年代順萬葉集	澤瀉久孝, 森本治吉 著	新潮社	1932	書庫 1
911.12-75-T	萬葉集古寫本の研究 (萬葉集の研究:第2)	佐佐木信綱著	岩波書店	1944.3	書庫 1
911.12-84-6	校本万葉集 巻第1	佐々木信綱 [ほか] 編	校本萬葉集刊行 会	1924.12- 1925.3	書庫 1
911.12-93	萬葉集論考	山田孝雄[ほか]著/ 辰巳利文編	素人社	1932.6	書庫 1
911.12-97-B	万葉集私注 新装版 10 補巻	土屋文明著	筑摩書房	1982-1983	書庫 1
911.12-98-3	万葉集注釈 普及版 巻第3	沢瀉久孝著	中央公論社	1982.11- 1984.9	書庫 1
911.12-99-T	萬葉集概説	佐佐木信綱著	明治書院	1932.11	書庫 1
911.12-106-1T	全譯萬葉集 1: 巻1-2	武田祐吉著	有精堂	1947.6-	書庫 1
911.12-106-2T	全譯萬葉集 2: 巻3	武田祐吉著	有精堂	1947.6-	書庫 1
911.12-115	春日本萬葉集殘簡	佐々木信綱解説	竹柏會	1930.4	書庫 1
911.12-120-14	仙覺全集 (萬葉集叢書:第8輯)	佐佐木信綱編	臨川書店	1972.11	書庫 1
911.12-120-16	萬葉學叢刊 中世篇 (萬葉集叢書:第10輯)	佐佐木信綱編	臨川書店	1972.11	書庫 1
911.12-140	新校萬葉集	澤瀉久孝, 佐伯梅友 共著	創元社	1949.9	書庫 1
911.12-170	萬葉集入門	土屋文明著	筑摩書房	1981.4	書庫 1
911.12-シ ナタ	万葉集の発明 : 国民国家と文化 装置としての古典	品田悦一著	新曜社	2001.2	書庫 1
911.12-ヤ スタ	わが萬葉集 (文春学藝ライブラリ ー:4. 思想)	保田與重郎著	文藝春秋	2013.12	一般資料
911.123-24-1	萬葉集講義 巻第1	山田孝雄著	宝文館	1928-1937	書庫 1
911.123-32-1	評釋萬葉集 巻1 (佐佐木信綱全集: 第1-7巻)	佐佐木信綱著	六興出版社	1948-1954	書庫 1
911.123-32-10	日本歌學史 (佐佐木信綱全集:第 10)	佐佐木信綱著	六興出版社	1949.7	書庫 1

911.123-36	評釈万葉集選	武田祐吉著	明治書院	1951.12	書庫 1
911.123-51	抄釋袖珍萬葉集	佐々木信綱著	博文館	1927.1	書庫 1
911.124-11-3	山部赤人/高市黒人/笠金村（作者別萬葉集評釈:第3巻）	佐々木信綱著	非凡閣	1936.2	書庫 1
911.124-29	万葉集上野国歌私注 第2版	土屋文明著	煥乎堂	1979.7	書庫 1
911.124-29-1T	萬葉集新釋 上	澤瀉久孝著	星野書店	1931.3	書庫 1
911.124-29-2T	萬葉集新釋 下	澤瀉久孝著	星野書店	1931.3	書庫 1
911.124-クホタ	万葉集評釈 新訂版 第1巻 巻第1・巻第2	窪田空穂著	東京堂出版	1984-1987	書庫 1
911.135-カタキ	古今和歌集（笠間文庫. 原文&現代語訳シリーズ）	片桐洋一訳・注	笠間書院	2005.9	書庫 1
911.16-12-12T	佐佐木信綱篇（短歌文學全集）	佐佐木信綱著	第一書房	1937.6	書庫 1
911.162-76-2	佐佐木信綱（短歌シリーズ・人と作品:2）	佐佐木幸綱著	桜楓社	1982.6	書庫 1
911.167-80-3	落合直文集/佐佐木信綱集（現代短歌全集:3）		改造社	1930.2	書庫 1
918-13-63	佐佐木信綱・金子薫園・尾上柴舟・太田水穂・窪田空穂・若山牧水集（明治文学全集:63）	山崎敏夫編	筑摩書房	1967.10	書庫 1
918.6-88-13	万葉集評釈 第1（窪田空穂全集:第13巻-第19巻）		角川書店	1966-1967	書庫 1
918.6-500-12	万葉集の精神：その成立と大伴家持（保田與重郎文庫:12）	保田與重郎著	新学社	2002.1	書庫 1
918.6-500-21	萬葉集名歌選釋（保田與重郎文庫:21）	保田與重郎著	新学社	1999.7	書庫 1
918.6-キータ	伊藤左千夫/佐佐木信綱（近代浪漫派文庫:17）	伊藤左千夫著/佐佐木信綱著	新学社	2005.2	書庫 1



資料展示「ヒトマロをさがせ！ 一柿本人麻呂の実像を求めて―」
図録・図書リスト

令和7年(2025)8月30日 発行